

ふれあい

2014.11

Vol. 5

TASHIRODAI 

日本医療機能評価機構認定病院

医療法人社団
豊美会

田代台病院 ・精神科・神経内科・内科

発行責任者：院長 中邑義継 〒754-0122 山口県美祢市美東町真名2941番地 TEL 08396-5-0301 FAX 08396-5-0861

病院理念

心や生活機能に障害をかかえるお年寄りの治療の為に、職員一同が、家族や地域の方々と連携しながら、医療、看護、介護や啓蒙を総合的に提供していきます。

看護理念

「和」の精神のもと、患者・家族・地域の皆様の期待に応えられる看護を提供します。

日本医療機能評価機構
認定第 JC1735 号

田代台病院は、よりよい医療を提供していくために、日本医療機能評価機構の認定を取得しています。

高齢者に多い糖尿病と認知症の関係

診療部長 有田 慈



現在、当院には約 260 人の患者さんが入院されており、うち約 80%の方がアルツハイマー型認知症であります。そして皆さんご高齢ということもあり、高血圧をはじめ様々な合併症があり、その中でも約 40%の方が糖尿病をお持ちです。

糖尿病の高齢者は、糖尿病でない高齢者と比べて、認知症の発生リスクが約 2 倍と報告されています。さらに、糖尿病の期間が長いほど発症のリスクは高いとされています。また、動脈硬化や腎症などが進んでいる人なども発症のリスクが高いと考えられています。

認知症という病気の性質上、昼夜逆転など生活リズムの乱れが起こりやすく、食生活においても大食い等、食事管理ができなくなることが、血糖コントロールの悪化に繋がります。

入院当初、著しい高血糖を呈し、インスリンの使用が必要な状態であった方が、病院食を決まった時間に決まった量を食べていただいているうちに、血糖値が落ち着いて、インスリンを必要としなくなるといったケースが多く見られ、つくづく糖尿病における食事療法の重要性を再認識させられます。このことは私達も用心しなければいけないところです。

美味しいものが豊富にある現代社会におきましては、誰しも美味しいものを食べて楽しみたいと思うのは人情というものでして、その結果でしょう、現在我が国では、糖尿病が増えていると厚生労働省では盛んに言っております。

糖尿病は合併症が重篤で大変怖い病気です。決して侮ってはいけません。

誘惑の多い世の中ですが、やはり賢く立ち回るべきで、つまるところ、食事は「ほどほどの量」を「ほどほどに楽しむ」ことが肝要かと思えます。

いっぽうかほうそう

患者さんにやさしい

一包化包装

当院薬剤科は、34年前の開院時より、『患者さんに、薬を解りやすく、正しく服用してもらおう』事を目的に、薬の一包化包装を行っています。一包化包装とは、錠剤や粉剤を一回の服用分毎に一つの包みに包装する事です。

当時の基本的な服用方法は、朝・昼・夕食後薬と就寝前薬でしたが、分包紙に、朝・昼・夕のゴム印や患者さんの名前のゴム印を押印した一日分の薬を患者さんに見てもらいながら飲み方を説明していました。患者さんには解りやすいと喜んで頂きましたが、一つ一つにゴム印を押す作業は大変な手間でした。その後、特注で分包機に名前・用法の入力できる印字装置を付けてもらい、分包紙に直接印字が出来るようになりました。印字もきれいで解りやすく、一包化包装で患者さんから飲み易い・ご家族から飲ませ易いと喜ばれました。又、病棟でも薬の管理と与薬が楽になり服用間違いも少なくなりました。当時、その珍しい分包紙の印字を見た他の病院の薬剤師から問屋を通して問い合わせがあった事もありました。一回分一包化包装のメリットは、何と言っても飲み忘れの防止です。毎朝、決まった場所にその日に飲む薬を置いておき、その時々一包になった薬を飲めば、一目で飲み忘れが患者さんにもご家族にも解る事です。

薬剤科の仕事は、

- ◎内服薬・注射薬・外用薬の調剤と監査
 - ◎患者さんの薬歴管理と薬剤情報箋の作成
 - ◎院内の薬剤の適正管理
 - ◎最新の薬剤情報の提供
 - ◎薬事委員会・給食委員会・感染対策委員会・リスク検討会等、会議への出席
- 等、いろいろありますが、すべては患者さんに、薬を正しく服用していただき、一日でも早くお元気になって、患者さん・ご家族が笑顔になれる事を目的とした活動です。

患者さんに優しく、又、そのご家族に寄り添い信頼される薬剤師になれたらといつも心から思いながら、毎日業務に励んでいます。

診療部 薬剤科



**認知症
ケアのポイント****今回の
テーマ****【やってよかった食事の工夫】** 

田代台病院 精神科看護・介護勉強会 認知症部会

認知症が進行すると自分で食事を食べることが難しくなっていきます。これまで、そうした認知症の方への食事のポイントを3回に分けてお伝えしてきましたが、今回は、まとめとして認知症の方にやってよかった食事の工夫を紹介します。

ポイント1：食事の時間

- みんなで一緒に食べる。
- 食事に集中できるような環境を作る。
- 話をしながら、楽しい雰囲気の中で食べる。

**ポイント2：食器の色や食事の形**

- 白いご飯やお粥には黒など色の濃い茶碗を使う。
- 軟らかめのご飯や、お粥にする。
- おかずは食べやすい大きさに切ったり、刻んだりする。またはミキサーを使う。トロミをつけて飲み込みやすくする。

**ポイント3：食事の道具**

- 本人にあったスプーンや補助具を使う。
- 麺類には割り箸を使う。
- 使い慣れたコップや茶碗を使う。

**ポイント4：食事がなかなかすすまない時**

- 食事を一緒に作る。
- 唾液の分泌を促すために食事の前に口を動かす、などマッサージを行う。
- お弁当を持って公園などに行き気分転換をする。

おわりに

食べることは人生の楽しみのひとつです。しかし、認知症の方は、食事が苦痛になったり、食べ辛くなったりすることがあります。そのような時には、お伝えしたような食事のポイントを試してみてください。食べるという楽しみがかなえられるような工夫をすることで、きっと楽しく食事をしてもらえると思います。

認知症の方の、それぞれに合った食事の工夫を行い、リラックスした雰囲気ですべてを楽しんでもらいましょう。

次回からは排泄ケアについてご紹介します。

デイケア なごみ通信

～芋の収穫～



今年は芋づるの育ち具合がいまひとつ。「今年はダメかもしれないね～」と心配しながら育ててきたサツマイモを、いよいよ収穫！

「ちょっと私にやらせてみいさん」と、職員の手からクワを取って慣れた手つきで畑を掘り起こす利用者さん。心配半分、期待半分。掘った畑からサツマイモが出てくると、「まあ！ええ芋が出来ちゃー



ね！」「こりゃー心配せんでもよかった！」と大歓声。しかし、その後はいくら掘っても芋が小さかったり細かったり。それでも、「まあ、こんな年もあるいね！」「畑っちゃこんなもんよ」「採れると嬉しいよね～」と、採れた芋を手にした皆さんの表情は、とってもまぶしい笑顔になりました。

「楽しい」「嬉しい」と感じることは、誰もが心地よく、気分が良いものです。

認知症の方は出来事（芋ほり等）を忘れやすいですが、感情（畑が楽しかった、辛かった等）はいつまでも残りやすいといわれています。「どうせ忘れるから、いいだろう」ではなく、「もし、自分だったらどう感じるだろう？」と相手の気持ちになって関わっていくことが大切です。

作業療法士 上田 貴弘

病院機能評価更新に向けて

当院は、来春の更新に向けて準備作業の真っ只中。今、ケアプロセス調査に対応する“診察から入院・退院・自宅までの医療サービスを、多職種が連携して計画的に提供するシステム”の再構築を行っています。「チーム支援プロセス」と名付けたこのシステムにより、質の高い医療サービスの提供が今まで以上に効率的に行われると考えています。

編集 後記

先日、高名な論客である国際医療福祉大学の高橋泰先生、日本慢性期医療協会の武久洋三先生の話聞く機会に恵まれた。そこで語られたのは、2025年に向けたダイナミックな医療・介護・福祉の改革であった。時代が変わる。戦後のスキームをいまだに踏襲している方が滑稽なのかも知れない。待ったなしである。しかし、理想が優先する厚生労働省のシナリオも実現できなければ破綻への導火線となってしまうだけである。地域包括ケアシステムなど官民を挙げて真剣に取り組まなければならない課題も多い。当院にとってもしっかり他人ごとではないと再認識したセミナーであった。
(椎木)